

# 都市再生整備計画 事後評価シート

## 枚方市駅周辺地区(2期)

令和7年12月

大阪府枚方市

## 様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	大阪府	市町村名	枚方市	地区名	枚方市駅周辺地区(2期)			面積	96.7ha		
交付期間	令和3年度～令和6年度	事後評価実施時期	令和7年度	交付対象事業費	2,337.2百万円	国費率	0.499				
1)事業の実施状況		事業名 道路(外周道路1工区、外周道路2工区、(都)枚方藤阪線)、道路 高架下道路改良工事(枚方市駅北通り線)、道路 無電柱化事業((都)枚方市駅前線)、高次都市施設 地域交流センター((仮称)枚方市駅前地域交流センター)									
		提案事業	地域創造支援事業((仮称)枚方市駅前行政サービス再編事業、(仮称)市民総合文化祭)、まちづくり活動推進事業(エリアマネジメント推進事業)								
		事業名					削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路(外周道路2工区)			用地交渉が難航しており、令和7年度の工事完了の確実性が担保できない状況のため、基幹事業から関連事業に変更。			指標3 洪滞長の減少:数値目標を当該事業による減少分下方修正		
	提案事業		—			—			—		
	新たに追加した事業	基幹事業	—			—			—		
	提案事業		—			—			—		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	交付期間の変更	当 初	令和3年度～令和7年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		指標4 人身事故件数の減少:トレンドによる減少数を考慮し、数値目標を下方修正					
		変 更	令和3年度～令和6年度								
4)定性的な効果発現状況	指標		従前値	目標値	数 値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定期		
	指標1	誘導施設の利用者数	人／年	84,423	R1	105,700	R6	モニタリング 166,600 (見込み値)	● ○	枚方市駅前に施設を再編し、市民窓口や図書館などの機能と一緒に整備したことによって、子育て世帯や高齢者など多様な世代にとって利便性が向上し、利用者数が增加了と考えられる。 なお、評価値は供用開始が令和6年9月であったため、半年間の測定値を1年間の利用者数となるよう算定した見込み値である。	令和7年度内
	指標2	市民との共催事業回数	回／年	9	R1	15	R6	— 14	● △	令和3年に供用開始した総合文化芸術センターにおいて、同年市民文化芸術団体と連携した共催事業を実施した。以降も毎年課題の見直しを重ねながら共催事業の推進を行ってきた結果、従前値より多数の事業を実施できたと考えられる。	令和7年度内
5)実施過程の評価	官民連携による取組	エリアマネジメントの推進	枚方市駅北・東側での「枚方市駅周辺地区第一種市街地再開発事業」を実施した。(令和7年度事業完了予定)	実施内容	実施状況		今後の対応方針等				
					都市再生整備計画に記載し、実施できた		—				
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		—				
5)実施過程の評価	持続的なまちづくり体制の構築	モニタリング	—	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			—				
					都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	引き続き、官民連携による公共空間の活用を検討し、まちの価値を持続的に育むため、市民や事業者、行政などがそれぞれの役割を果たしながらエリアマネジメントを推進する。				
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		—				
5)実施過程の評価	持続的なまちづくり体制の構築	—	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			事業によって整備した広場や公共空間の活用を検討し、新たな人流やにぎわい創出に向けて管理組合等と意見交換を行っていく。				
					都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	—				
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		—				
5)実施過程の評価	持続的なまちづくり体制の構築	—	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			—				

## 様式2-2 地区の概要

枚方市駅周辺地区(2期)(大阪府枚方市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標 地域資源や誘導施設を生かした拠点機能の強化と公民連携での交通環境の改善による、市の「玄関口」におけるまちの賑わい創出	誘導施設の利用者数	単位:人／年	84,423	R1年度	105,700	R6年度	166,600	R6年度	
	市民との共催事業回数	単位:回／年	9	R1年度	15	R6年度	14	R6年度	
	渋滞長の減少	単位:m	93	R2年度	58	R6年度	6	R6年度	
目標1 多様な主体による交流の活性化 目標2 交通機能の強化による渋滞緩和 目標3 ゆとりのある歩行空間の形成による回遊性の向上	人身事故件数の減少	単位:件／年	63	R1年 (H27年～R1年の平均)	49	R6年	48	R6年	



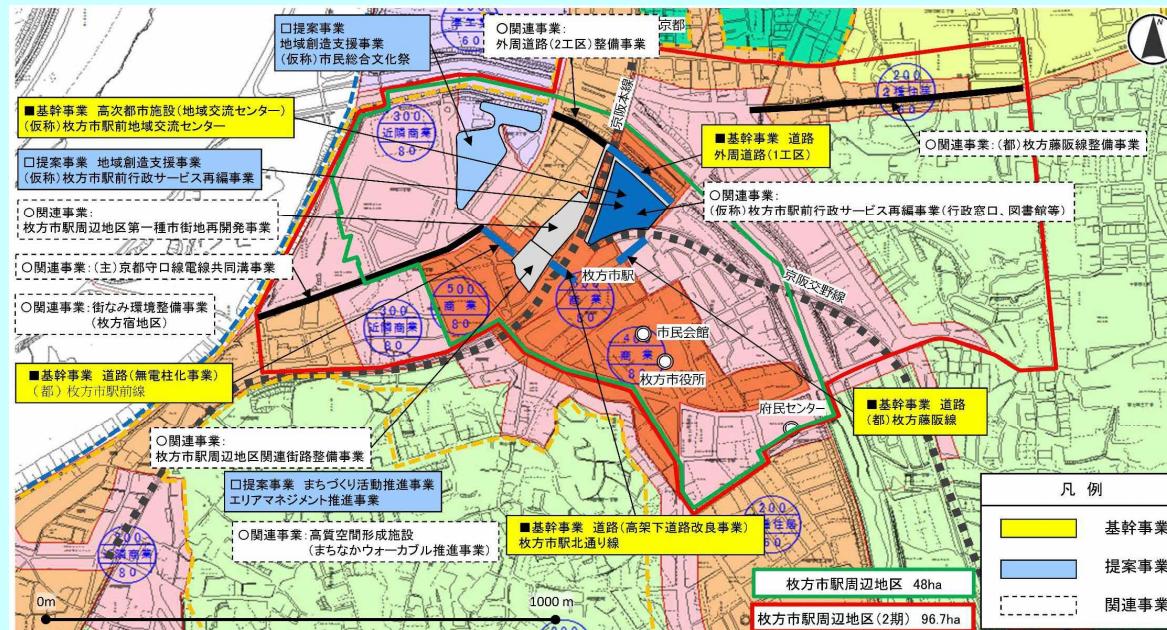
【基幹：（仮称）枚方市駅前地域交流センター】  
【提案：（仮称）枚方市駅前行政サービス再編事業】



### 【基幹：（都）枚方市駅前線】



【提客・エリアマネジメント推進事業】



【基幹:外周道路(1工区)】

【基幹:(都)枚方藤阪線】

【基幹：枚方市駅北通り線】

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流センター等の整備により、老朽化や多様化する市民ニーズに対応した施設に更新され、行政サービス施設の機能が向上している。</li> <li>・生涯学習市民センター等で行われている市民の日頃の文化芸術活動の発表機会の提供や、ジャンルを超えた交流を促したことにより、文化芸術活動を行う市民団体の世代間や団体同士の交流が増進している。</li> <li>・北口駅前広場の整備に合わせた枚方市駅北通り線の高架下道路改良工事による相互通行化やバ尔斯ルートの見直し、一般車両の通過交通の抑制をお願いする啓発活動により、枚方市駅前広場の混雑や駅周辺道路のうちラボール枚方前交差点における交通渋滞の解消につながった。</li> <li>・枚方市駅周辺地区第一種市街地再開発事業とあわせて地域交流センター等を整備したことにより、枚方市駅周辺(枚方市駅前広場や市役所周辺を含む)の利用者の行動範囲が一部駅東側に広がった。</li> <li>・UR都市機構や地域、大学と連携して、公共空間を活用した社会実験を実施したことにより、広場のあり方や、設備の方向性などの確認がされ、エリアマネジメントの実現に向けた取組みが進められている。</li> <li>・京阪枚方市駅へ向かう交通の集中、駅周辺道路での慢性的な交通渋滞の発生といった課題が残されている。</li> <li>・枚方市駅前広場や市役所周辺に人々が集中する傾向にあり、行動範囲が限られるといった課題が残されている。</li> <li>・枚方市駅周辺再整備(公園・広場整備)の進捗に合わせたまちづくり組織の設立やエリアマネジメントを継続するための仕組みづくり(収益、担い手)といった課題が残されている。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流センターや総合文化芸術センター等において、各施設管理者によるイベントや図書館と連携したイベント等の定期的な人が集まる仕掛けの実施により、引き続き継続した賑わいの創出を推進する。</li> <li>・枚方市駅周辺の通過交通を抑制するため、駅周辺道路の整備とあわせて枚方市駅南口駅前広場の整備を行うことで、公共交通の定時制の確保や駅周辺道路の慢性的な交通渋滞の緩和を推進する。</li> <li>・枚方市駅南口駅前広場や市役所周辺において、ウォーカブルなまちの形成に向けた枚方市駅周辺再整備等を進めることにより、枚方市駅前広場や市役所周辺の人々の行動範囲の拡大を図る。</li> <li>・枚方市駅周辺の再整備や公共空間を活用した社会実験を行いながら、まちづくり組織の設立やエリアマネジメントを継続するための仕組みづくり(収益、担い手)を進めていく。</li> </ul>